



ビジネスプランの仲間たち

今回のテーマは…【自分を動物に例えると…】



幼稚園の時から、チータの
絵を書き、そのスピード、足の
早さに憧れを抱いてい
ました。そのため、
仕事に対するも、
スピード感が運びます。
石川 秀樹

「ハコフク（魚）です。
硬い甲羅で、くくり
泳ぐ姿はとても愛
らしく、この辺の
海でもよく見か
けます。カワイイ。
田原 智延

「牛」です。体型は
違うけど、動作が
遅く、ゆっくりとし
ていると言わんば
事がありま。や
はり丑年だからかな。
濱崎 俊明

まゆ毛の濃いのいです。
思ひ込みが強く自分自身で
これだと思たら突き進む
タイプです。もう少し
おりて見ればと
思ひます。
中島 大吾

「ライオン」中では「優ややかライ
オン」です。ピンと来た方はどうぞ。
と通りです。個性心理学でキャラ
クタです。実はアドバイザー
資格あります。興味
のある方は私まで!!
佐々木 康恵

性格はチーターだと思います。
興味を持ったことには、一瞬
熱中して全力を出しますが、冷
めてしまった時の失速
までが結構早い…。
原 光

「パンダ」です。
自分でエサを食べたり、
木に登ったりとマイペース
な一面が私に
似ていますかな
と思ひます。
室田 直樹

性格・行動パターンは「ジミ
ニに聞かれてます。「コモロウ」がう
れです。最大の共通点は、集団行動
が苦手で、単独行動
が好きで、おしゃべりと云
う（笑）。
橋本 一輝

「レッサーパンダ」です。
マイペースで、単独行動を好み
つつ、のんびりしているようで新
しいものにはすぐに飛び
つく好奇心旺盛な
性格です。
増子 枝里子

動物に例えると、シマリス
かなと思いま。ちょっと
警戒心は強めですが
争いごとは苦手で
毎日ニコニコが
得意です。
石川 智恵美

みんなで楽しむことが好
きなイルカです。楽しいこと
が好きで、場が盛り上がると
一緒に楽しめます。楽し
け過ぎに注意します。
宮川 侑也

「犬」だと思います。
実家で飼っていた事もあり、
飼い主が逆に飼い犬に似たいため。
かといって嫌な人には吠え
るわけではありません!!
近藤 良照

わたしたちは、たくさんの“ありがとう”を集め、日本の中小企業を元気にします

※過去のニュースレター「かけはし」は、弊社ホームページからご覧頂けます。



かけはし

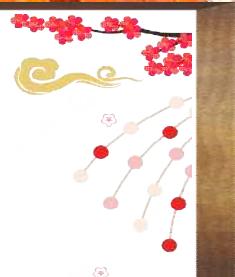
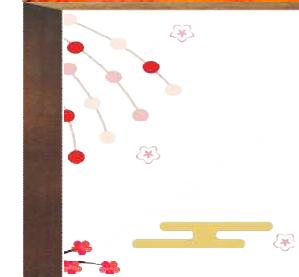
Vol.67
冬号
2026年1月



「第8回 コメディ・クラウン・サーカスin益田」を開催しました！

1~3月の税務・お知らせ

- 1月・・・源泉徴収票の交付、支払調書の提出（～2/2）
- 2、3月・・・前年分贈与税の申告（2/2～3/16）
前年分所得税の確定申告（2/16～3/16）



お休みカレンダー

2026年 1月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2026年 2月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

2026年 3月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				



ビジネスプラン / あんの会計

〒698-0041 島根県益田市高津一丁目1番1号
TEL(0856)23-6116 FAX(0856)23-6674
E-mail bplan@sx.miracle.ne.jp



代表取締役
安野 広明

こんにちは、ビジネスプランの安野広明です。新年、明けましておめでとうございます。去る1月4日に、「コメディ・クラウン・サーラス in 益田」をグランツワで開催いたしました。こちらのイベントは、弊社の地域貢献活動として継続しており、今年で8回目となります。お陰様で、2公演とも大盛況で700名超の皆様にご参加いただきました。今回はエリアを広げてチラシの配布を行ったため、初参加の方も多く、お正月にご家族での時間を楽しんでいただけたのではないかと思います。ご参加下さった皆様、ありがとうございました！

さて、今年の干支は午年(うまどし)で、馬の持つ「力強さ」「行動力」「前進」「成功」などを象徴し、新しい挑戦や発展に良い年を意味するそうです。スピード感を持って新たな挑戦をする、弊社としてもそんな年にして参ります。それでは2026年も、どうぞよろしくお願いします！



「自分にしかできること」を見つけるために

「楽をして稼ぎたい」「同じ給料なら、できるだけ手を抜きたい」「最低限の仕事をこなし、それ以上労力をかけるのは損」

SNSなどを眺めていると、世の中には上記のような労働観の人が多いと感じます。「水は低きに流れ、人は易きに流れる」と言われる通り、意識しなければ楽を選ぼうとするのは人間の本性なのでしょう。かくいう私自身、社会人になりたての頃はけっこう酷かったです(汗)。「社内研修をいかにしてサボるか?」や「いかに楽して成果を出すか?」ばかり考えていました。そして、「もっと自分にしかできない仕事がどこかにあるはずだ(→それが見つかれば、楽しく稼げそう)」などと妄想する…。

今になって振り返ると、「ここではないどこか」に思いを致すことで、現実逃避していただけのように思います。

ただ、その後、様々な人や本との出会いの中で、自分の考えが間違っていたことに気付かされました。ごく一部の天才を除いて、最初から独自の才能がパッと開花する仕事なんていうのはありません。とりわけ私のような凡人の場合、目の前にある仕事がすべてのスタートなのです。

そしてまずは、誰にでもできることを誰もできないくらいにやる。おそらく多くの人は、「必要以上に労力をかけるのは損だ」くらいに思ってそこまでやらないはずなので、逆にチャンスです。そうやって「誰もやってないことではなく、「誰にでもできること」を徹底的に追求していけば、やがてそこに自分らしさを見い出せるはず。

というのも、誰にでもできる仕事の方が、誰がやるかによって差が生まれるからです。例えば、「誰にでもできる仕事」をAさんとBさんとに頼んだ際、その仕上がりを見て、「さすがAさんらしい、丁寧な仕事だ」と感じることもあれば、「Bさんはいつも、少し雑なんだよな」と感じることもあるでしょう。掃除一つとっても、この場所はAさん(or Bさん)が掃除したと分かるかもしれません。

そうすると、仮に、誰もやったことのない仕事が入ってきた時、AさんとBさんのどちらに任せるかの判断材料にもなりますよね。そうやって任されたAさんは、ますます知識や経験値が高まり、結果として自分にしかできない仕事を見つけられると思います。

このように、チルチルミチルが追い求めた「幸せの青い鳥」ではありませんが、「自分にしかできること」はどこか遠くにあるのではなく、そのきっかけはいつも自分の足元に落ちています。まずは誰にでもできることを誰もできないくらいにやる。そんなことを心がけてみてはいかがでしょうか。

過去の自分を反省しつつ、そんなことを考えました。

第41期 経営計画発表会を開催いたしました！



「独自の価値創造経営」
igatta代表 田村茂

基調講演



元株式会社モスフードサービス専務取締役の office igatta代表の田村茂先生を講師としてお招きし、『中小企業が生き抜く「独自の価値創造経営」』をテーマにご講演いただきました。大変分かりやすく、かつ具体的な事例が豊富で、皆さん真剣にメモを取っていました。



田村茂 先生

経営計画発表会 & 社員代表挨拶



代表の安野による経営計画発表



会場の様子



専務の石川による社員代表挨拶

交流会



田村先生や参加者同士の交流の場として、ささやかな交流会を企画しました。終始笑顔が見られる和やかな雰囲気で、基調講演のご感想やそれぞれの会社での取組みなど、業種の垣根を越えて、会話に花が咲きました^ ^



交流会の様子

「リーダーシップ」の2つの視点

リーダーシップのスタイルには、「賢者風」と「愚者風」があると言われます。そして一般的に、「賢者風」が理想とされているのはご承知の通りです。強くて、優秀で、頼りになる。まさに完璧なリーダーという感じですね。ただし、「賢者風」には問題もあります。それは、周りのメンバーがリーダーに依存してしまうこと。「どうしたらしいですか?」と聞けば、的確な答えを教えてもらえるため、やがて自分で考えれば分かることまでリーダーに頼るようになるのです。依存はその人の力を弱め、そのままではリーダーがいなければ成り立たない脆弱な組織になってしまうでしょう。そこでリーダーに依存せず、メンバーが自分で考えながら行動できるようになるためには、「愚者風」が求められます。このリーダーの特徴は、

- ▼ 分からないことを聞かれたら、「自分に任せておけ」なんて言わず、「よく分からない」と言う
- ▼ 分からないので、「なにかアイデアある?」と他人によく聞く
- ▼ 失敗したら、「これを活かしてどうする?」と前向きに考える
- ▼ 上からではなく、誰にでもフラットに接する などなど。

あくまで「愚者風」なので、特に何もしない訳ではなく、例えば会社としての基準に合わない行為に対しては毅然とした態度で介入します。また、メンバーを思い通りにコントロールしようとはしませんが、1人ひとりに考えてもらうための問い合わせをしたり、本質的なことに関しては教える場面もあったりと、「教えすぎず、かつ、教えなさすぎない」のが愚者風リーダーシップと言えるでしょう。

もちろん、「賢者風」と「愚者風」のどちらか1つが正しいものではありません。どういう組織にしたいかによっても、用いるリーダーシップは異なるでしょう。とはいっても、「賢者風」=「理想のリーダー」と思い込んでいるとすれば、「愚者風」という視点を持っておいた方がよいと思います。賢者風のリーダーシップのままで、メンバーが自分で考えて動ける自律型の組織を目指そうとするのは、少し無理がありますので…。

私の好きな言葉に、「熟練した者たちは目立たなく、また、愚か者のようにさえ見える」という格言があるのですが、まさにリーダーシップにおいても同じ。私自身、自律型組織を目指す上で、ただの愚者から「愚者風」になれるよう、引き続き精進いたします。

最後は「真面目」が勝つ

「〇〇さんって、真面目だよね」という言葉は、表面的には褒めているのですが、その裏側には「つまらない人」「面白くない人」という意味を含んでいることが多いような気がします。

ですので、「真面目」と言われて素直に喜べる人は少ないでしょうし、場合によってはネガティブに捉える人もいるかもしれません。(まあ、誰から言われるかにもよるのでしょうかけど)

ただ、人生を長い目で見た時に、やはり最後は真面目が勝つというのが、私の見解です。確かに若い頃は、努力せずとも才能だけで成果を出したり、要領よくやつてもはやされたり、派手さや見た目でちやほやされたりしている人を見て、羨ましく感じることもあるかもしれません。そういう人たちが真面目を軽んじていたとすれば、年齢を重ねるごとに苦しくなっていくと思います。

なぜならば、自分よりも才能がある、もしくは要領のよい若い世代は次から次へと現れますし、自然現象として見た目が衰えていくのは避けて通れないからです。つまり、その輝きを失っていくということ。

これに対して長きに渡って活躍できる人というのは、やはりやるべきことを真面目にやり続けています。

人の約束を守る、丁寧にお礼を伝える、時間に遅れないなどはもちろんのこと、自分との約束を守り、専門性と人間性の両面において自らを磨き高めるための努力を惜しません。

このことは凡人に限らず、一流と呼ばれる人でも同じ。というのも、『月刊致知』などの人間学を学ぶ雑誌を読んでいると、それぞれの世界で活躍している人は、例外なく真面目だからです。

ちなみに真面目だからといって、見た目や言動が地味である必要はありません。やるべきことを真面目にやっていれば、キャラはなんでもあります。もしも、おしゃらけた感じの人が真面目だと、そのギャップがむしろ好印象かもしれませんね。地味でいるよりも周囲に対して明るく振る舞えた方が、ご縁が広がる気がしますし。

なにはともあれ、人生は長期戦です。昔は真面目をバカにしていた人も、時の経過と共にバカにはできなくなるでしょう。真面目を貫いて来たかどうかは、後になればなるほど効いてくる(=差がつく)からです。

ということで、「最後は真面目が勝つ」と信じて、私自身、地道にコツコツと積み重ねて参ります。

混迷期・変革期こそ、進化するための行動を

益田市の隣の山口県萩市は、ご承知の通り、「明治維新胎動の地」です。「なぜ、人口約4万人の小さな町が、明治維新で日本を動かす原動力になれたのか？」おそらく、萩を訪れた方の多くはそう感じるのではないでしょうか。

もちろん長州藩の経済力や軍事力なども大きかったのでしょうか、そこはやはり教育によって他藩を圧倒する人材を輩出できたことが最大の理由ではないかと思います。そしてその教育の中心にいたのが、言わずと知れた幕末の思想家・吉田松陰です。しかも松陰が松下村塾で弟子たちに講義したのは、わずか1年余りにすぎません。

これはまさに、約160年前に起きた奇跡のような史実です。

したがって私は、社員教育にたずさわる立場として、吉田松陰という人物に興味を抱いてきました。県外の方をお連れする機会を含めると、これまでに50回以上は松下村塾に訪問したと思います。

ところで先日、吉田松陰の年譜について見返す機会がありました。そこには29歳で亡くなるまでの出来事が書いてあつたのですが、改めて、その密度の濃さは圧巻です。私が着目したのは、青年時代に、自ら志願して九州、江戸、東北を旅しているところ。当時は歩きですので、今と比べて途方もない時間と労力を使って移動された訳です。

そうすることで現地で見て学び、人に会って語り合い、全国に同志のネットワークを築かれました。その経験と繋がりが、後の教育の礎になったのだと思います。

逆に言えば、もしも松陰が萩にこもって外に出ようとしない、もしくは書物に書いてある内容を分かったかのように弟子に教えるだけだったとすれば、いくら天才といえど、あそこまでの人材を輩出できず、明治維新は実現しなかったかもしれません。

やはり自らが行動して得た知識や学びだからこそ、それが短期間であったとしても、弟子たちの心に志の火をつけ、高杉晋作、久坂玄瑞、伊藤博文、山県有朋など、維新を実行し、新政府を担うまでの人材を輩出できたのではないでしょうか。

そんな吉田松陰という人物から、現代を生き、かつ、経営者の自分が学べるとすれば、あたかも明治維新のごとく混迷期・変革期である今こそ、積極的に外に出て自ら見て学び、人に会って語り合い、同志のネットワークをこれまで以上に広く、強固にする必要があるということです。歩いて移動した160年前の当時と比べれば、かなり恵まれた環境の中にいる訳ですし。

私自身、社員の心に火がつけられるよう、これからも経営者として現状に甘んずることなく、2026年は進化のための行動に重きを置こうと思います。吉田松陰の年譜を見返しながら、そんなことを考えました。

セミナー紹介



テーマ 「財務を学び、良い会社に！」

テクノアークしまね(松江市)にて、産業資源循環協会青年部様の研修が開催され、代表の安野が講師を務めました。

経営者やリーダーが持つておくべき財務の視点についての内容で、「非常に分かりやすかった」などのご感想をいただきました。

「人を幸せにする経営計画書による人財育成」

福島県郡山市にて、会計人のネットワークである健人俱楽部様主催の研修に全国から会計事務所の所長約30名が集まり、代表の安野が経営計画書の人財育成への活用事例を発表いたしました。皆さん真剣に聞いて下さり、活発な意見交換が行われました。

「壁を乗り越える！ 事業継承のメリットと落とし穴」

大田商工会議所様主催のセミナーが同所にて開催され、専務の石川が講師をつとめました。参加者は経営者、後継者、市職員など幅広く、「参加して良かったです。」「とても勉強になりました。」などの嬉しいご感想をいただきました。